

教えてください、あなたのことを。⑦

東京都小金井市 加藤^{のりみち}了教 さん（生ごみ処理を考える小金井市民協議会）

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 小金井に生まれ育ち今日まで71年になります。農業と緑のまちからベットタウンのまちへの変貌をみてきました。

Q ごみ問題に関心を持つようになったきっかけは？

A 民間会社の環境部門担当になったのがきっかけといえます。1990年頃です。排水処理、ごみ処理、ボイラーからの排煙などでした。ごみ処理ではさまざまな廃棄物の徹底分別とリサイクルで、ほぼ「ごみゼロエミッション」を達成した思い出があります。

小金井市のごみ問題への関心は、蛇の目跡地（中町3丁目）が焼却場候補地になったのが始まりです。蛇の目跡地は町会のエリアであり、町会長から「ぜひ、焼却場建設場所等市民検討委員会への参加に名乗りをあげてほしい」という要請を受けてからです。

以来、ごみゼロ化推進会議、廃棄物減量等審議会、夏休み生ごみ市民投入や土曜生ごみ市民投入、生ごみのHDMシステム実証実験を進める会、4月に発足した小金井市生ごみを考える市民協議会などごみ減量・リサイクルの取り組みに深くかかわるようになりました。

Q ごみ問題に関わること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 趣味はスキーと旅行など。スキーは50才から始め、毎年3～4回行っています。小金井市スキー連盟が企画する北海道ツアーに9年続けて参加しています。北海道は雪質が良く快適なスキーが楽しめます。あと時間を見つけて国内と海外旅行をしています。

Q 特筆すべき近況があれば教えてください。

A 小金井市のごみ問題に関していえば、市民の努力でごみ減量が続いていること。小金井市のごみ総排出量は平成12年度が34,154 tで、平成23年度は26,004 t。約8,000 t減量しています。可燃ごみは23,325 tから13,291 t、約10,000 t減量（約43%減量）しています。今年度は12,000 t台にすべく努力しています。1人1日当たりのごみ排出量（人口10万人以上50万人未満）では全国トップクラスを続けています。

市民の努力があってこそ、と思っています。一方、ごみ焼却施設の建設場所を含む処理体制では、「非常事態宣言」以来6年にもなるというのに方針が定まっておらず、近隣市や一部事務組合の皆さんにご迷惑をかけ続け、申し訳ないと思っています。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 4月に小金井市生ごみを考える市民協議会が発足し、8月にごみ環境ビジョン21の団体会員になりました。「ごみっと・SUN」や「市民大学セミナー」の情報に、確信や勇気ももらっています。小金井市はさらに可燃ごみを大幅に減らす必要があります。わけでも生ごみの減量は市と市民の努力で確実に減らせます。そのための生ごみを考える市民協議会の発足でもあります。これからも多摩地域を中心にして国内・海外の先進例を紹介していただけたらと思います。多摩地域にたくさんいる会員さんの結集を望みます。

